

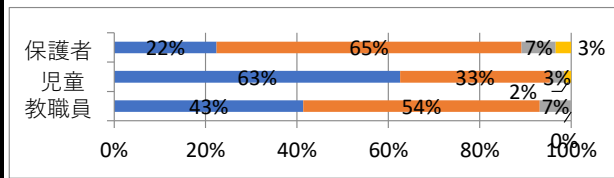
令和4年度 学校評価

■ そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない

①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

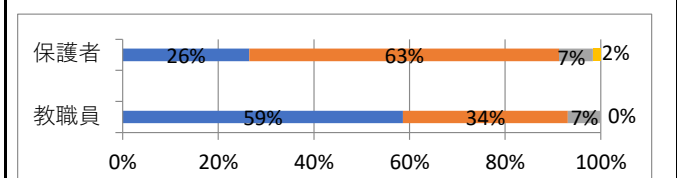
1 一人一人の児童生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。



2 道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）



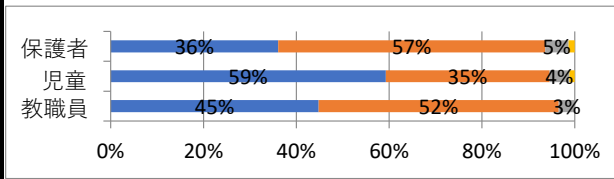
○「一人一人の児童の尊重」に関して、「3」「4」の割合が、保護者、児童、職員で概ね9割となっている。何かあったときに管理職、生徒指導主任を中心として、各学年の生徒指導担当職員、養護教諭、担任、SC,SSW等関係職員がチームとなり、素早く対応しているので、高い評価を得られていると思われる。保護者の理解が進んでいないこと、大切にされていないと感じている児童がいることを重く受け止め取り組みや対応の見直しを行っていききたい。

○「道徳・心の教育の充実」に関して昨年度と比較して、教職員の「4」の割合が大きく伸びているものの、「2」の割合も10%弱増えている。また、保護者の「3」「4」の割合は昨年度と大きく変わってはいないが、「4」の割合が減っている。「1」という回答もあったことから、心の教育の充実に図っていくと共に児童の成長や道徳教育への取り組み等を地域や保護者に発信していくよう努めたい。

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

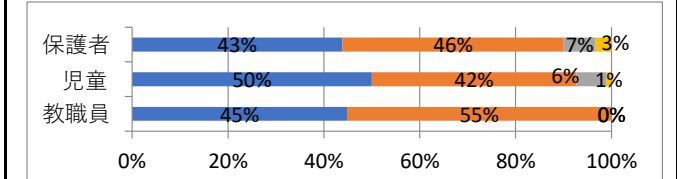
3 授業力向上

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



4 タブレット端末活用

子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。



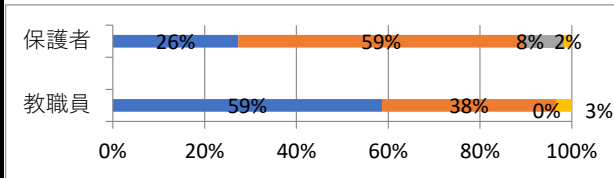
○「授業力向上」に関して、すべての対象で「4」「3」という回答が9割を超えている。特に児童からの回答で6割が「4」という結果が出ているのは、職員の日々の授業準備、教材研究の賜物だろう。さらに職員同士が互いの授業を見る機会をもち教師の授業力を上げるために今後も研鑽を積んでいきたい。また、授業参観で保護者に見ていただき、どのような学習をしているかを伝える機会を増やせば、更に良い結果につながると予想される。

○「タブレット端末活用」に関してすべての対象で「4」「3」の割合が9割を超えている。保護者では「2」「1」の割合が1割程度いる。残り1割が感じていることを把握ししっかりと対応していくことでさらに効果的に活用につながっていくと考える。また、情報モラル教育や教職員の研修、家庭への啓発を充実させていきたい。

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

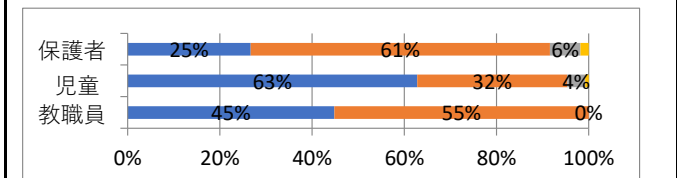
5 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。



6 共生社会を担う人材の育成

学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。



○「学校の支援体制」に関しては、全体的に保護者と職員間で、差異が見られる。学校は、特に支援が必要な児童の保護者と密に連絡を取りながら、同じ方向性で支援をしていく必要がある。「4」または「3」と回答した保護者の割合は、昨年度とそれほど変わらない。8割を超えているので、概ね理解を得られていると思うが、「2」及び「1」の割合も昨年度とあまり変わらないことから、支援を必要とする児童・家庭としっかりとつながり、取り組みを進めていきたい。

○「共生社会を担う人材の育成」に関しては、「2」あるいは「1」と回答した保護者が1割以上いる。また、昨年度と比較しても、伸びがほとんどないことから、さらに児童には学習の中で、保護者には学校通信や学級通信等で知らせる必要があると考える。

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

7 安全と事故防止	8 家庭や地域との連携協力																																			
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。																																			
<table border="1"> <caption>安全と事故防止に関する回答割合</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>「4」</th> <th>「3」</th> <th>「2」</th> <th>「1」</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>27%</td> <td>57%</td> <td>9%</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>63%</td> <td>32%</td> <td>4%</td> <td>1%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>62%</td> <td>34%</td> <td>3%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象	「4」	「3」	「2」	「1」	保護者	27%	57%	9%	4%	児童	63%	32%	4%	1%	教職員	62%	34%	3%	0%	<table border="1"> <caption>家庭や地域との連携協力に関する回答割合</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>「4」</th> <th>「3」</th> <th>「2」</th> <th>「1」</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>25%</td> <td>54%</td> <td>12%</td> <td>7%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>28%</td> <td>69%</td> <td>3%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象	「4」	「3」	「2」	「1」	保護者	25%	54%	12%	7%	教職員	28%	69%	3%	0%
対象	「4」	「3」	「2」	「1」																																
保護者	27%	57%	9%	4%																																
児童	63%	32%	4%	1%																																
教職員	62%	34%	3%	0%																																
対象	「4」	「3」	「2」	「1」																																
保護者	25%	54%	12%	7%																																
教職員	28%	69%	3%	0%																																
<p>○「安全と事故防止」に関しては、昨年と同様にすべての対象で「4」「3」の割合が8割を超えている。児童に対しては、授業だけでなく、貼り紙や声掛けにより、安全と事故防止について繰り返し指導を続けてきた。今後も指導を続けていきたい。</p> <p>○「家庭や地域との連携協力」に関しては、保護者の「4」「3」の割合が8割を超え、昨年度より大幅に伸びている。昨年度まで感染症防止のために、保護者の来校を制限していたが、それが緩和されたこともあると思われるが、学級担任が保護者とこまめに連絡を取り合い、家庭と連携していくことを大切にしてきたことが成果として現れていると思われる。</p>																																				

⑤ 互いの良さを認め、互いを大切にしよう仲間づくりの推進

9 学校独自1	10 学校独自2																																								
子どもは、友達と仲良く過ごし、ほめたり励まし合ったりするような行動ができていますか。	子どもは、「自分がされて嫌なこと、たとえ自分はよくとも、相手が嫌なことは、人にしない・言わない」ができていますか。																																								
<table border="1"> <caption>学校独自1に関する回答割合</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>「4」</th> <th>「3」</th> <th>「2」</th> <th>「1」</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>35%</td> <td>55%</td> <td>5%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>56%</td> <td>35%</td> <td>6%</td> <td>3%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>31%</td> <td>52%</td> <td>17%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象	「4」	「3」	「2」	「1」	保護者	35%	55%	5%	0%	児童	56%	35%	6%	3%	教職員	31%	52%	17%	0%	<table border="1"> <caption>学校独自2に関する回答割合</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>「4」</th> <th>「3」</th> <th>「2」</th> <th>「1」</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>25%</td> <td>60%</td> <td>11%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>40%</td> <td>48%</td> <td>10%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>7%</td> <td>52%</td> <td>34%</td> <td>7%</td> </tr> </tbody> </table>	対象	「4」	「3」	「2」	「1」	保護者	25%	60%	11%	0%	児童	40%	48%	10%	2%	教職員	7%	52%	34%	7%
対象	「4」	「3」	「2」	「1」																																					
保護者	35%	55%	5%	0%																																					
児童	56%	35%	6%	3%																																					
教職員	31%	52%	17%	0%																																					
対象	「4」	「3」	「2」	「1」																																					
保護者	25%	60%	11%	0%																																					
児童	40%	48%	10%	2%																																					
教職員	7%	52%	34%	7%																																					
<p>○「子どもは、友達と仲良く過ごし、ほめたり励まし合ったりするような行動ができていますか。」に関して保護者、児童は、「4」及び「3」の割合が9割を超えているのに対し、教職員では8割程度に留まっている。さらに指導を工夫して、高めていきたい。</p> <p>○「嫌なことを相手にしない、言わない」に関しては、保護者・児童と教職員の評価に優位に差が見られる。教職員では特に「4」の割合が1割に満たない。日常的な指導はもとより、人権教育、心の教育をさらに充実させていく必要性を感じている。学校生活において言葉遣いや相手に欠ける言葉、態度について全職員で根気強く指導を続け、保護者・児童にもその必要性を伝えていかなければならないと考える。</p>																																									

⑤ 互いの良さを認め、互いを大切にしよう仲間づくりの推進

11 学校独自3																					
子どもは、学習課題に向かって友達と協力して取り組んでいると思いますか。																					
<table border="1"> <caption>学校独自3に関する回答割合</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>「4」</th> <th>「3」</th> <th>「2」</th> <th>「1」</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>26%</td> <td>61%</td> <td>7%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>55%</td> <td>37%</td> <td>6%</td> <td>1%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>31%</td> <td>62%</td> <td>7%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象	「4」	「3」	「2」	「1」	保護者	26%	61%	7%	0%	児童	55%	37%	6%	1%	教職員	31%	62%	7%	0%	
対象	「4」	「3」	「2」	「1」																	
保護者	26%	61%	7%	0%																	
児童	55%	37%	6%	1%																	
教職員	31%	62%	7%	0%																	
<p>○どの対象においても、「4」「3」の割合が9割を超え、良好だと言える。特に、「児童」では、「4」の割合が50%を超え、学習課題に向かって協力して取り組んでいる、という実感をもっていることがうかがえる。今年度、校内研でも取り組んだ。また、総合的な学習の時間の充実により、達成感や満足感のある学習ができていたと考える。しかし、「児童」で「1」の評価をした児童が数名いた。さらに教材研究に励み、児童が自ら課題を持ち、協働して学習したくなるような授業づくりを続けたい。</p>																					

来年度の具体的な取組について

- 校内避難訓練において、学年ごとの感染防止対策により、段階的避難訓練を行ってきた。しかし、全学年での避難訓練を行って見ないと、全体での動きが見えないので、訓練をより確かなものにするために、来年度は全学年での避難訓練を行いたい。
- 学級懇談会や、授業参観が少しずつ行われるようになってきた。学校教育への理解を深め、保護者と手を携えていく絶好の機会だと捉えて積極的に連携を深めていきたい。
- 学校と保護者の相互理解を図るには、「知らせる」ことが大切である。学校でどのように指導を行っているのか、どのような取り組みをしているのか、保護者に伝えることによって理解を得ることが期待できる。そのために、学校通信等定期的に発行し、メール配信を行ったり、ホームページに載せたりする取組を続ける。
- 「子供たち同士をつなぐ」校内研修を今後も継続して取り組んでいく。

学校関係者評価

- コロナ感染拡大防止への対応が変わるにつれて、地域交流やゲストティチャーを招聘しての学習ができるようになったと伺った。よいことである。地域は学校のために関わり、学校は地域との関わりを生かして子どもたちへの教育につなげるために地域に協力する形が生まれる。
- 家庭で子どもを育てる部分について、コロナで人との交流が減った分、学校への期待も大きくなっている。本来家庭で育てる部分について、学校へもってくるのではなく、保護者同士や複数の保護者と複数の子どもとの交流が必要。行事や交流の場におけるコロナ対策や熱中症対策の手段をいろいろと工夫することを今も行っていると思うが、これからも状況に合わせて考えてみてほしい。
- PTA活動も同じで、地域と学校との関わりのように、コロナ感染拡大防止の中で失われたり、様変わりしてきたことについて、保護者と保護者をつなぎ、子どもと子どもをつなぐために、徐々に戻していくことも考える必要がある。5年～10年かかるかもしれない。